小林兄弟： 奥出雲の日本刀職人

小林家は 18 世紀後半から奥出雲地方で製鉄と日本刀作りを営んできた。1980 年代から、3 人の兄弟が中心となって、伝統的な日本刀作りの技術を守り続けている。小林力夫（1948 年生まれ）、小林貞俊（1941 年～）、小林弘嗣（1938 年～）の 3 兄弟で、それぞれ職人名、"貞永"、"貞法"、"貞照 "でも知られている。

三兄弟は、父である小林大四郎（1903-1976）、通称「貞義」の指導の下、幼い頃から日本刀作りを学んだ。貞俊と弘嗣は 1970 年に、力夫は 1972 年に文化庁の刀匠免許を取得した。1982 年と 1983 年に開催された日本美術刀剣保存協会主催の展覧会では、3 兄弟とも出品作が入選し、注目を集めた。

小林兄弟は対外的な活動にも従事し、地域や全国の刀匠組合の事務局を務める一方、博物館の敷地内にある工房で日本刀作りの実演を定期的に行っていた。

1999 年、島根県は力夫と貞俊の兄弟を無形文化財に認定した。